

凌霜

りょうそう

郡上市の教育理念

「凌霜の心」で拓く明日の郡上市

「凌霜の心」高い志と不屈の精神・感謝の心

「郡上市歴史資料館企画展」

ふるさとの学校

―学校保存資料にみる

近代郡上教育の歩み―

9月1日より開催中

日本の小学校は明治初期から地域と切っても切り離せない関係にありました。学校によって150年近くもその関係は続いています。学校に保存されてきた資料（以下、学校保存資料とします）は各学校の地域の歴史を示しているといってもよいものです。

明治期以降、郡上市域には、70余校の小学校が開校しましたが、1960年代の高度経済成長期頃から、学校や分校の閉校が進み、21校（令和3年現在）に減少しています。

当館では、開館した平成30年より市域の小中学校を訪問し、学校保存資料の調査を実施し、その成果は館報一号・二号に掲載しています。

本企画展は、学校に残る公文書、沿革誌を中心に学校創設期から大正期までの郡上の教育のあゆみを振り返り、各学校に残

されている資料を大きく以下の3つのテーマに分け、紹介しています。



郡上市歴史資料館展示室

●学校創設期の郡上

明治政府は、近代国家形成に向けて、近代的学校制度の創設による人材の養成を重要視していました。

明治5年学制が公布され、翌6年には八幡町の桜義校ほか郡上郡内では58校が開校しました。一方、明治10年代の県内の就学率は60%、実際の通学率は24〜45%という状況で、実際の就学は進みませんでした。明治19年に小学校令が公布され、尋常科と高等科の課程が基本とな

ります。また、就学経費を町村で賄う簡易科が設けられ、郡内の小学校は68校になりました。

●国民皆学の実現に向けて
(日清・日露戦争期の教育)

明治30年の郡上郡の就学率は69.8%と県平均の66.5%より高くなりました。同33年の小学校令により簡易科は尋常科と一本化し、授業料無償化、就学義務の厳格化等が定められました。小学校の義務教育が進み、郡内の就学率の差を解消する取り組みもあり、明治末期から大正初期にはほぼ100%近くに近づきます。

●大正新教育の展開と郡上

大正時代には高等科の進学率が課題となりますが、大正7年に町立八幡実科女学校、同11年に郡立郡上農林学校が開校します。また、運動会、学芸会、修学旅行などの行事が定着し、地域住民の参加もあり、地域の学校としての存在感が高まってきました。

展示された写真、統計資料、郷土教材などから当時の教育の姿、人びとの教育への思いをぜひ、ご覧ください。

●場 郡上市歴史資料館

●日 12月26日(日)まで
午前9時〜午後5時
月曜休館・入館無料

●☎ 65・3711

市民のみなさんの「声」をお聞かせください！

市では、市民のみなさんのご意見、ご提案を伺い、また意見交換をするなどの広聴事業を各種行っています。市長と少人数グループで行う座談会を随時募集しており、アンケートはがきや市ホームページのメールからも意見を伺っています。ぜひ、みなさんの「声」をお聞かせください。

アンケートはがき

「郡上ケーブルテレビを活用した情報発信」に関するアンケートはがきを広報7月号と一緒に全戸配布しました。まだお手元があればアンケートの回答（切手不要）にご協力ください。また、はがきは郡上のおどりを紹介する写真付きですので、どうぞご活用ください。

ふれあい座談会

各種団体（5人以上）等のみなさんが活動される上での課題や市の取組みへの質問等について、市長へお聞かせください。市内の集会場等、どこにでも伺います。



ふれあい座談会実施要領

問 市長公室秘書広報課 ☎ 67-1121